



矢川だより

特集

ものの市2024 in 滝乃川学園



No.135

2024.12.Winter



望月 敬志さん

友田 由香さん

2021年10月に「JR中央線コミュニティデザイン(JRCCD)」に入社し、現在はnonowa国立(JR国立駅)チーフ。駅業務と地域連携企画を担当し、「CCDアンサンブルサークル」の代表も務める。

国立市・富士見通り沿いの「就労継続支援B型 ソウファクトリー」施設長。「ものづくりのわ」発起人。息子さんが滝乃川学園成人部に通い、木工作品の制作などを手がける。



友田 由香 (とまた・ゆか) さん
望月 敬志 (もちづき・たかし) さん

矢川のひと

秋色に彩られた
私たちの滝乃川学園で
今年も「ものの市」が開催されました！
いつもの顔も
初めましての顔も
ライブ演奏、風の音、賑わいに包まれて
一緒に笑い合っています
学園で過ごしていると
同じ日はふたつとしてありません
今号の「矢川だより」では
一年で最も賑わうこの一日を
支え続ける人々の
熱い想いをお届けします

ものづくりからひろがる「わ」

障害のある作り手たちの作品が集まるマルシェ「ものづくりのわ」は、2020年9月にJR国立駅構内の商業施設「nonowa国立」でスタートしました。障害のある人が通う施設で作られる木工やレザー製品、陶芸作品にはクオリティの高いものが多く、「もっと世の中の人に知ってほしい」という想いから、個人で出店販売をしていた友田さんに、JR国立駅社員が声をかけたことが始まりです。「息子が滝乃川学園に通っていて、この自然豊かな環境で『ものづくりのわ』が開催できないかとずっと思っていました。そこで学園とJRさんに声をかけたら『ぜひやろう！』と言ってくださって、『ものの市』がスタートしました」(友田さん)

ものづくりのわ、JRCCD(※)、まちなこ、滝乃川学園の4者合同の「ものの市」は、今年で3年目。約10ヶ月にわたる企画会議と準備、そして熱意のもと、毎年規模を拡大しています。

「JRCCDでは地域連携企画を推進しており、地域とつながる駅がモットー。駅社員も「ものの市」の企画や当日のサポートを行ったり、自分たち発信の企画や、今年は楽器演奏も行いました(望月さん)」「ものの市」の光景は、地域に門戸を開いた滝乃川学園が目指す姿そのもの。あなたもぜひ、訪れてみませんか？



ものの市開催中の滝乃川学園

※JR中央線コミュニティデザイン



▲ものの市開催に向け正門のアーチの装飾を制作

「ものの市」は、さまざまな人たちがそれぞれ「主役」となって作り上げているお祭りです。得意なことを表現したり、普段作っているものを販売したり、仲間たちと楽しい時間を過ごしたりと、ありのままの自分(たち)を自分なりに表現して楽しむ場です。そもそも、自分の人生は「自分が主役」です。その「主役」たちが、いろいろな人たちと関係を築きながら、さまざまに活動をして社会を形成しています。

多様な個性が輝く市

お話を聞いた職員



ものの市担当者
支援部門 副総合施設長
杉崎 靖夫



生活介護部として出店
成人部 生活介護部 部長
水島 大

特集

ものの市2024 in 滝乃川学園

地域の団体が滝乃川学園に集まるものづくりマルシェ『ものの市』が、2024年も開催されました！



JR中央線コミュニティデザイン社員の皆さんによる楽器演奏



▲当日の出店やイベントなどの様子

得意を活かした ものづくり



利用者さんが
椅子を
作りました！

滝乃川学園の利用者さんの多くが、2ヶ月に一回の「ものの市」のわ）や、年に一回の「ものの市」を楽しみにしています。イベントで販売するものづくりを手がける「成人部生活介護」は、木工や製菓などのグループに分かれており、それぞれ作品づくりに取り組んでいます。利用者さんにも得意不得意なことがあり、不得意なことを職員がやるのではなく、利用者さんそれぞれの得意を活かした工程を組んで、一つのを完成させています。「滝乃川学園クッキー」作りでも、卵を割る人、焼く人、袋詰めする人など、得意な作業を分担しています。（水島）



▲青空グループの作品



▲滝乃川学園 ブースの様子

▼落ち葉ビンゴの景品ゲット！



私たちの暮らしている地域社会には、自分の家族や仕事場の人、その他関係性のある人の他にも、実に多くの人が、知りもせず知らされもせず身近なところで生活しています。

「預かり知らないところ」では、日々の生活の中で喜びや楽しみを感じたり、辛さ苦しさを誰にも理解されずに悩みを抱えている大人や子どもがいます。その悩みや苦しみの様相はその人その人によってさまざまです。簡単に変えることは難しいかも知れません。しかし、「わかってくれる人」がいるだけで、心は癒され気持ちが軽くなります。

急激に大きな変容をもたらすことはできませんが、「ものの市」に参加される方たちが、多くの方たちと楽しい時間を一緒に過ごし、少しでも互いに理解者になることで、これまでよりも思いやりの輪が広がり、情緒豊かな「優しい地域社会」となっていくことを願って「ものの市」を開催しています。

地域に開かれた 学園として

「ものの市」の開催に向けて、年度のはじめから滝乃川学園の全部署から行事係の担当者が集まり、会議を重ねています。落ち葉でできたビンゴゲーム「落ち葉ビンゴ」の景品の折り紙でできたメダルなども、行事係が作ったものです。行事係以外の職員も毎年参加して、キッチンカーや音楽イベントを楽しんで、文化祭のような盛り上がりを見せています。地域の人たちにもチラシを配るなどして、少しずつ認知度や理解度が進んでいるように思います。これからも「地域に開かれた学園」の取り組みの一環として、「ものの市」が成長していくことを願っています。（杉崎）

景品を
1つ1つ
作っています！



利用者さんの生活をサポートする 滝乃川学園ではたらく

インタビュー
by
国立人



日本初の知的障害児者のための福祉施設「滝乃川学園」ではたらく職員のインタビューを通して、利用者さんと職員の日々の様子を覗いてみませんか？ 児童から高齢の方まで、多様な利用者さんの支援を行う各部署の仕事内容も詳しく紹介します！

「ういんぐ・わく」は、一見するとまち中にある普通のアパートですが、実は滝乃川学園のグループホーム。その一室は交流室になっており、職員が利用者さんの暮らしや自立をサポートしています。

I 職員

グループホーム部
ういんぐ・わく
[勤続年数：4年]



「ここで暮らす利用者さんは、みんな一人暮らしをしています。日中は一般企業で働いている人も多いです。身の回りのこともほぼご自身でできるので、休日は自分で料理をしたり、洗濯をしたり、毎日のお弁当を作っている人もいます。職員は皆さんの食事作りや行政に提出する書類作りのお手伝いなどを行っています」

(I 職員)

一日の仕事の流れは、平日は朝食作りと出勤の送り出し、日中は書類作成のお手伝い、夜は夕食作りと帰宅の受け入れ、入浴や服薬サポートなどを行います。休日には、ヘルパーさんと一緒に外出する利用者さんの送り出しや迎え入れなどを行います。勤務は早番と遅番に分かれており、I 職員の場

合は、子育てと両立して時短で働いているため、主に早番で勤務をしています。

「職場の人間関係やお金の使い方など、自立して働く利用者さんの日々の出来事の悩み相談に乗ることが多いです。表情や様子がいつもと違っていたら声をかけたり、悩みをメモに書いて渡してくれたり話を聞いたり。みなさんが日常生活を楽しく、豊かな気持ちで過ごせるようにサポートしています」

(I 職員)

外で活躍している利用者さんにとって、職員は日中の楽しかったことや、困ったことなど、帰宅してからのなんでも話すことのできる大切な存在のようです。

K 職員

成人部
清風棟女子寮
[勤続年数：1年]



滝乃川学園の敷地内にある「清風棟女子寮」では、20代から70代までの幅広い年代の女性が暮らしています。

「今年、新卒で滝乃川学園に入職しました。ここには高齢の方や、車椅子の方もいらっ

Q.滝乃川学園の衛生管理者はどんな仕事を

していますか？

衛生管理者は、労働安全衛生法に基づき、従業員が50人以上いる職場に必ず1人以上設置することが義務づけられていて、滝乃川学園には兼務で2名配置されています。

業務内容は、職員の健康診断や、ストレスチェックの実施および結果管理、職員への安全衛生教育の実施、衛生管理に関する記録の作成・管理などです。「安全衛生委員会」と一緒に定期的な職場巡視を行ったり、産業医と連携し職員のメンタルヘルスや体調管理も行います。

Q.嬉しかったエピソードを教えてください！

滝乃川学園の職員は健康意識が高い方が多いので、数年前に人事科の職員と一緒に健診先のクリニックを開拓しました。豊富なオプション検査、スピーディーな健診案内、精密検査は附属病院でフォローできるクリニックが見つかり、職員の皆さんからとても好評いただきました！

微力ながらも職員の皆さんの健康維持にたずさわること、利用者の皆様にとってもより良い環境になり、滝乃川学園全体の良い循環につながるように思います。そのようなお手伝いができることを大変うれしく思います。

滝乃川学園の衛生管理者って何？

お話を聞いた人

法人本部 Y.E職員
(勤務年数 26年)
(衛生管理者歴12年)

Q.衛生管理者の資格を取得したきっかけは？

「安全衛生委員会」の担当部長になり、資格が必要になったことです。

資格取得のための学習は、普段の業務とはあまり関連性がなく、新しく知ることばかりでしたが、働きやすい環境づくり、労務の知識、作業をする上での照度など、周囲の人たちのために役立てられることがあると思うと、学習意欲が高まりました。

Q.日々、やりがいに感じることは？

職員が元気に生き活きと働ける環境づくりにたずさわれることです。

誰しも、時には体調が悪くなったり、心が疲れたりもします。そんな時、産業医の先生と連携して対応することで、職員の皆さんの健康維持や心の安定に繋がると、やりがいを感じます。

一日の初めは、平日は朝食、身支度やトイレ介助、敷地内の生活介護棟での活動

「見まねで徐々に身につけていっています」(K職員)

「シャるので、車椅子の押し方や介助の仕方など、イチから覚えて経験を積んでいるところ。先輩はみんな優しく、毎日素敵だなと感じる支援の様子を見ることができるので、見よう見まねで徐々に身につけていっています」(K職員)



送迎時になると生活介護棟前に送迎車がずらりと並びます

「事に取り組んでいます。」

「新しいことをもっと知りたい」という気持ちで、日々の仕事を

「私もこんな風になりたいな」という気持ちが大きくなり、滝乃川学園の入職を決めました」(K職員)

「もともと保育士を目指して、大学に通っていました。実習先がたまたま滝乃川学園で、そこで利用者さんと職員さんのあたたかい自然なコミュニケーションを見て、

「運動が必要な方と一緒に散歩に出かけることもあります。手先が器用な方と「紙すき」を一緒にすることも多いそうです。」

私たちと一緒に働きませんか！

支援員 募集中

詳しくは滝乃川学園のホームページの「採用情報」をご覧ください。見学等、随時受け付けています。

問い合わせ 法人本部運営管理部人事科
TEL | 042-573-3950





利用者さんの活動記録

資源回収活動でつながる 滝乃川学園と地域の人々



お話を聞いた職員
成人部生活介護部 部長
水島 大

日中活動を行う生活介護部では、資源物の回収・リサイクル活動や、公園の清掃活動を行っています。担当するのは、「ひばりグループ」「ひいらぎグループ」に通う20〜40代の利用者さんです。それぞれのグループで担当する曜日や場所が分かれており、「ひばり」の人たちは、地域の学校の資源物回収を担当。「ひいらぎ」の人たちは、滝乃川学園内の資源物の回収や、週2回の矢川上公園の清掃を担当しています。矢川上公園では、他の事業所の人たちと一緒にすることもあります。

回収する資源物は、段ボール、ペットボトル、シュレッダーにかけた紙、紙類など。それらを国立市内のリサイクル会社「イズミ環境マテリアル」さんに搬入しています（いつもあたたかく受け入れてくださり、感謝しています！）。牛乳パックはビニール部分を剥がして、水に浸けてほぐし、ミキサー

にかけてオリジナルのハガキを作ったりもしています。

地域に出かけての資源物回収や清掃活動は、利用者さんにとって社会との接点になっていますし、リヤカーを引いたり、回収する作業は運動にもなります。学校の文化祭や卒業式など、大量に資源物が出る時期もあって大変ですが、職員と力を合わせて頑張っています。

何う曜日が大体決まっているので、滝乃川学園が回収活動をしていることを知っているまわりの人も増えてきました。「こんにちは」と挨拶してくださったり、「いつもありがとう」と言ってくださる人や、直接電話でねぎらいの言葉をかけてくださる人もいます。

些細なきっかけや交流を通じて、私たちに関心を持っていただけるたび、とても嬉しく思います。（水島）

回収した牛乳パックから作ったハガキ

回収し分類した資源物

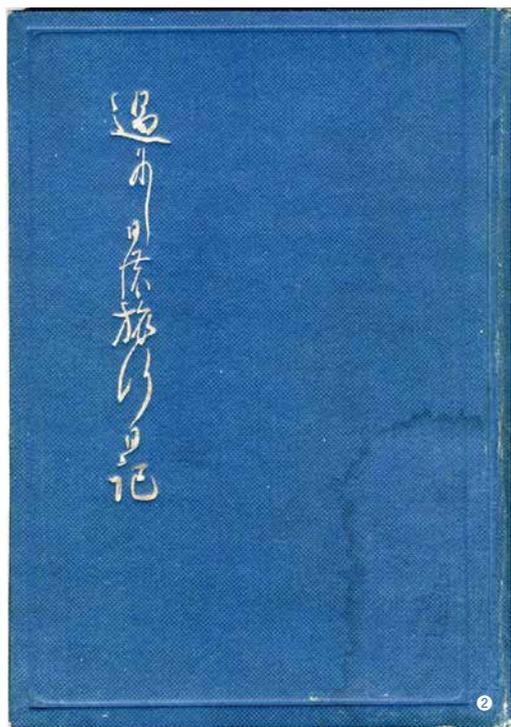
資源物を学園内に運び込む



米川館長の 歴史さかのぼり

石井亮一・筆子記念館
元館長 米川 寛

このコラムは滝乃川学園の深い歴史に魅せられ、2009年に記念館館長になった米川元館長の歴史をさかのぼるコラムである。



▲②『過にし日の旅行日記』



①『女学雑誌』第467号 筆子、梅子の訪米の記事▶

その9 筆子の訪米 1

亮一が孤女学院を滝乃川学園に改め、知的障害児教育を本格的に始めた頃、1898(明治31)年3月、筆子の三女康子は病気で亡くなり、一人残った長女幸子を滝乃川学園に預け、新たな歩みを始めた筆子のもとに訪米の話が持ち込まれた。

この年の5月、アメリカで婦人参政権運動、女性の社会活動の推進などを目的に発展した「万国婦人倶楽部」から、時の日本政府へ、日本からも女性の代表を6月に開催される世界大会に派遣してほしいとの要請があり、政府は華族女学校教師の筆子と津田梅子を選抜し、アメリカへ派遣する事とした。このことは各紙(報知新聞、毎日新聞等)や『女学雑誌』(写真①)等で大きく報じられた。

6月3日、横浜港からイギリス船籍の蒸気船で出航、17日イギリス領ビクトリアに上陸し、19日にはワシントン州タコマに到着した。翌20日から寝台車によるアメリカ横断の旅が始まった。二人が目的地のコロラド州デン

バーに到着したのは23日であった。翌年の24日、二人は「万国婦人倶楽部世界大会」に和服で出席し、約2000人の聴衆に紹介された。各々英語にてスピーチを行い、会場の喝采を受けた(現地新聞に掲載され、話題となった)。

その後、梅子は留学中世話になったホームステイ先へ赴き、梅子と別れた筆子は、多くの教育・福祉施設を精力的に視察し、見聞を広めた。

筆子は、この旅行の事を『過にし日の旅行日記』(写真②)に記し、1942(昭和17)年に出版している。訪米から44年経っての出版である。現在学園に保管されている元原稿は3種類あり、筆子がいっつか出版するために推敲を重ねてきたことがうかがわれる。この本の中で、アメリカ生活が長かった梅子に、アメリカの習慣をはじめ文化の違いなどを教えて貰うなど、既に故人となっている梅子との二人三脚での旅行が睦まじく描かれている。

チャプレンからのクリスマスメッセージ

聖公会と

滝乃川学園聖三一礼拝堂

—— チャプレン 高瀬祐二

滝乃川学園聖三一礼拝堂は日本聖公会東京教区に属しています。一般的に、まちにあるキリスト教施設は「○○教会」と呼ばれますが、団体に附属（当園の場合には社会福祉法人）するキリスト教施設は「○○礼拝堂」とだけ呼ばれます。同じ聖公会から派生し、石井亮一が教頭をしていた立教女学院には聖マリア礼拝堂という大きな礼拝堂があります。礼拝堂がある団体は、聖公会にルーツを持つ学校、病院、社会福祉施設等です。まれに個人の業績等を記念して個人名のついた礼拝堂もあります。皆さんもご存じの軽井沢には、「軽井沢開発の父」アレキサンダー・クロフト・シヨウ宣教師を記念して「シヨウ記念礼拝堂」があります。

今から100年前、創立期の学校、病院、社会福祉施設にとって礼拝堂を持つことはとても重要でした。滝乃川学園を見ても、石井亮一・筆子記念館と礼拝堂は1928（昭和3）年に建設され、記念館は木造、礼拝堂は、壁RC造、屋根木造（RC造とはコンクリートと鉄筋で造られ、多摩地域で、当時民間の建物としては数少ない建物）ということからも、礼拝堂を重要視していたことがわかります。施設で働く人々、利用される方々にとって精神的な支柱が礼拝堂でした。

当時の学校、病院、社会福祉施設は、国の支援もなく、利用している方々からの収入と教会を通して、国内外の援助によって運営されていました。当園の『百二十年史』を見ても2/3の期間（約80年）は常に金策に追われていたことがわかります。いわば逆境の中、働く方々、支える方々のキリスト教に基づく使命感で逆境を乗り越えてきたといえます。それら人々の支えとなったのが、集まり祈る場所としての礼拝堂でした。

以前、今は病院としては使われていない聖路加国際病院を訪れた時、6階建て建物の中央に6階吹き抜けの礼拝堂があり、礼拝堂を囲むようにコの字型に病室が配置され、各階から、直接礼拝堂にアクセスできる構造になっていました。驚きの配置でした。このように、礼拝堂は学生、病気の方々、施設を利用する方々等々、またそこで働く人々の信仰的な支柱となってきました。先達たちの心に思いをはせながら、礼拝堂をあらためて見ていただけたらなと思っています。

聖三一礼拝堂では毎週日曜日午前10時から、参加される利用者の方々に合わせた朝の祈りを行っています。どなたでもご参加できます。

日本聖公会と

滝乃川学園

創立者の石井亮一は、立教大学在学中にキリスト教と出会いました。日本聖公会の祖であり、立教大学の創始者であるウィリアムス主教より教えを受け、信徒となり、夫人の筆子も同主教の下で信徒となりました。敬虔な信徒であった夫妻は、学園の中心に教会を建て、日曜日の礼拝のみならず、日課の最初は朝のお祈りで始まり、夕のお祈りで閉じていました。設立当初から、日本聖公会からの多大なるご支援をいただいております、学園の134年にわたる歴史は、日本聖公会と共にありました。



滝乃川学園聖三一礼拝堂

チャプレン

チャプレンは、教会以外の学校や病院や社会福祉施設と礼拝堂（チャペル）で働く牧師のことです。滝乃川学園聖三一礼拝堂では、滝乃川学園の常務理事でもある高瀬祐二がチャプレンに就任しています。



Instagramやっています！

滝乃川学園の日々の様子をゆる〜く発信しています。お気軽にのぞいてみてください！



@takinogawagakuen



インフォメーションボード

2024年
12月

ご支援のお願い

日頃より私たち滝乃川学園に温かいお心をお寄せいただき、深く感謝申し上げます。私たち滝乃川学園は、障害のある人々がみずからの幸せを希求できる場を創造、提供し、それを支援する有為な人材を育て、学園の発展のみならず、わが国の障害者福祉のさらなる進歩に貢献できるように、役員一同、先駆者としての誇りを胸に、努力していく所存です。引き続き、皆様のご指導とあたたかいご支援を宜しくお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行

専用の払込票がございます。必要な方は、お電話またはメールにてお問い合わせください。

三井住友銀行

銀行名：三井住友銀行国立支店
口座番号：普通預金 0921148
口座名義：社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

三菱UFJ銀行

銀行名：三菱UFJ銀行府中支店
口座番号：普通預金 0002309
口座名義：社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

130周年記念寄附について

重度の方でもいきいきと活動できる場所を目指し、私たちは日々活動しております。新規事業に向けて、皆様のおたたかいご支援を引き続きお願い申し上げます。

感謝録 寄附者 ご紹介

ホームページにて、2024年7月1日から2024年10月31日までに寄附いただきました皆様をご紹介させていただきます。

ボランティア募集！

滝乃川学園では、日中活動支援、余暇活動支援、園内環境整備（除草・落ち葉掃きなど学園内の清掃・整備）などのボランティア活動をしてくださるボランティアの方を募集しています。イベントボランティアは、随時ホームページにて情報を掲載していきます。ぜひお気軽にお問い合わせください。

ボランティア担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

滝乃川学園ガーデンプロジェクト

園内にある500坪ほどの敷地にコミュニティガーデンを作り、内外の人がみんなで協力して、維持管理をしながら、誰もが憩うことができる場所を目指して活動しています。まずは気軽にガーデンの見学にいらしてください。お待ちしております！

【日時】「滝乃川学園ガーデンプロジェクト」のフェイスブック（公式ページ）で最新の日程をお知らせしていますので、ご確認ください。

【場所】聖三一礼拝堂前コミュニティガーデン

【服装】汚れてもよい服装、靴

ガーデンプロジェクト担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

あおいとり保育園の園長先生に聞く

矢川あたりの 鳥たち 虫たち

滝乃川学園のご近所、「国立あおいとり保育園」の園長・佐伯元行さんは、幼い頃から生き物博士！ そんな佐伯園長に、滝乃川学園界限でその季節に見られる鳥や虫を教えてください。

その9
モズ



棒に止まるメス



オス 飛翔



杭に止まるオス



はやにえにされたトカゲ

写真・文：佐伯元行

モズは国立市では10月から3月頃よく見られる鳥で、秋には木の梢で「高鳴き」と呼ばれる激しい声が聞かれます。また「はやにえ」と言われる昆虫やトカゲ等を木の棘に突き刺す行動が知られ、餌の少ない時期に備えた貯食の意味やオスの繁殖期の歌の質を高める栄養食になることもわかってきました。

矢川だより

No.135

矢川だより 第135号

2024年12月発行

発行 社会福祉法人 滝乃川学園

制作 矢川だより編集会議

合同会社三画舎



〒186-0015

東京都国立市矢川三丁目16番地の1

電話 042-573-3950 (代表)

メール soumu@takinogawagakuen.jp

H P <https://www.takinogawagakuen.jp/>



公式ホームページ



矢川だよりの感想を
お聞かせください！